

* 高校1年生、伝統柄の刺し子に挑戦 *



新学期が始まり、あっという間に1ヶ月が経過しました。今年入学した皆さん、また進学した皆さん、そろそろ新しい学校生活に慣れてきた頃だと思います。家庭科では皆さんがほどよい緊張感を保てるよう、5月から集中力を高める！を合言葉に手仕事を行います。少し気の緩むこの季節ですがしっかり乗り越えましょう。



日本の伝統文化を学ぶ「刺し子のお弁当包み」

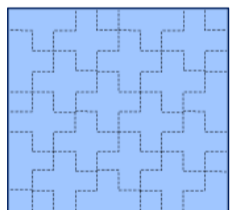
藍色の木綿布に白い糸で刺す刺し子は、日本に古くから伝わる伝統的な刺しゅうです。その素朴で美しい技法は、庶民が日々暮らしていく上で生活の知恵から編み出されました。全国各地にこの技法を施したのが見られるため、その発祥の地は定かではありませんが、日本三大刺し子といわれる津軽の「こぎん刺し」（青森県西部）、南部の「菱刺し」（青森県東部）、庄内の「庄内刺し子」（山形県沿岸部）が有名です。防寒、補強として、衣料に刺し子をしたことがその始まりとされています。最近では布・糸ともにカラフルなものがあり、また様々なものに刺し子が施されています。今回は伝統柄を施したお弁当包みにチャレンジしました。

女子も男子もアイロンがけ(三つ折り)に苦戦中。みんな作業に集中しています。ガンバッテ！

刺し子*伝統柄の紹介

※ここでは伝統柄の一部を紹介いたします

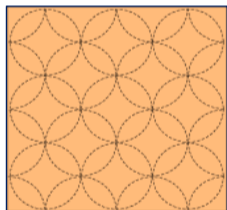
刺し子には様々な柄があり、その柄にはそれぞれ意味があります。



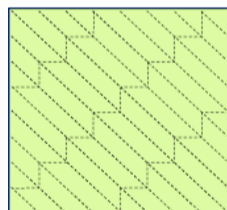
十字つなぎ(じゅうじ)
十字が連続した模様。端から階段状に斜めに刺していくと糸を続けて刺すことができる。



花刺し(はなざし)
曲線の連続模様で、花が一面に咲いたような美しく可愛らしい模様。



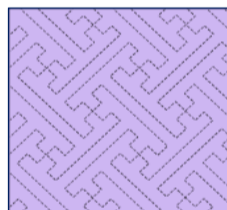
七宝つなぎ(しっぽう)
無限に連鎖する平和や円満を意味する輪の交叉から成る文様のため「世界中の財宝」と「無限の子孫繁栄」を表す吉祥紋として家紋・屏風の裏紙の模様などに用いられた。



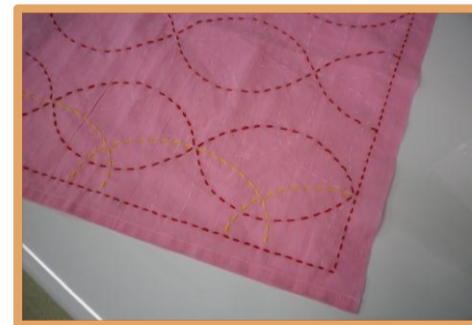
矢羽根(やばね)
矢羽根柄には破魔矢に由来し、魔を払うという意味がある。また、幸せを求めて飛んで行って下さい、との意味もある。



角七宝(かくしっぽう)
七宝とは七種の宝のこと。七種(ななくさ)の宝、七珍ともいう。無量寿經の「金、銀、瑠璃(るり)、玻璃(はり)、シャコ、珊瑚(さんご)、瑪瑙(めのう)」の7種のこと。



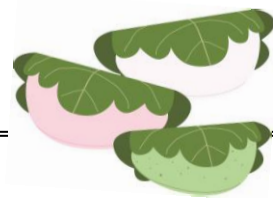
紗綾形(さやがた)
くずした卍(まんじ)を連続させた模様。江戸時代舶来の絹織物の紗綾の地紋に用いられたのでこの名がある。吉凶ともに通用し、染織品の模様によく用いられ、特に繪子(りんず)の地紋として知られる。



↑ 刺し子(見本作品)作業途中画像

来月から手縫い開始！

同じ縫い目(幅など)、また布が引きつらないよう、ひと針、ひと針丁寧に刺していけばお裁縫が苦手という人でも美しく仕上がる刺し子。単なるデザインではなく、それぞれの柄に意味があるのも素敵ですね。昔はとても貴重だったという布を大切に、また美しく使うための工夫である刺し子。来月からはいよいよ刺していきますよ。



編集後記

平成25年(2013年)12月「和食;日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたのをきっかけに、食文化はもちろん、日本の伝統文化に関する関心が高まっています。日本だけでなく海外でも日本の伝統工芸品等の展示会が開催されるなど盛り上がりつつありますが、実際には生産者が高齢化し、技術や文化を継承する若者がいない為、消えつつある日本文化もあります。今回の刺し子をきっかけに日本の伝統文化について調べてみましょう。夏休みに帰省や旅行で訪れる先の事から調べてもいいですね！日本にはまだまだ沢山の良いものがありますよ。



5月はミシンで布の端を三つ折りにして縫いました。6月からはいよいよ刺し子に入ります。

